独立行政法人 国際協力機構

ニジェール共和国 農業開発省

ニジェール国 サヘルオアシス開発計画調査

ファイナルレポート

- 第1巻: アクションプラン編 -

平成 21 年 11 月

独立行政法人 国際農林水産業研究センター

農村 JR 09-067 日本国政府は、ニジェール国政府の要請に基づき、小規模貯水池の有効活用を通じた農業開発計画を実施・展開するためのアクションプラン策定に係る開発調査を実施することを決定し、独立行政法人国際協力機構がこの調査を実施いたしました。

当機構は、平成 17 年 11 月から平成 21 年 11 月まで、独立行政法人国際農林水産業研究センター(平成 20 年 3 月までは独立行政法人緑資源機構)の大須賀公郎氏を団長とし、この間数回に分けて調査団を現地に派遣いたしました。

調査団は、ニジェール国政府関係者と協議を行うとともに、計画対象 地域における現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報 告書完成の運びとなりました。

この報告書が、本計画の推進に寄与するとともに、両国の友好・親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終わりに、調査にご協力とご支援を戴いた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成 21 年 11 月

独立行政法人国際協力機構 理事 髙島 泉 独立行政法人 国際協力機構理 事 高島 泉 殿

伝 達 状

今般、ニジェール国「サヘルオアシス開発計画調査」に係る業務が終了しましたので、ここに最終報告書を提出いたします。本報告書は、平成17年11月から平成21年11月までの4年間にわたり実施された調査の結果を取りまとめたものです。

本調査の目的は、「大統領特別プログラム」により建設された小規模貯水池の有効活用を中心として、(1)行政・NGOの支援及びFarmer to Farmer (農民間普及)による住民主体の農村開発事業を実施・展開するためのアクションプランを明らかにすること、及び(2)パイロットプロジェクトの実施により、行政官(中央・地方レベル)及び住民(住民組織)の能力を向上すること、の2点におかれました。

パイロットプロジェクトでは、貯水池利用者組合設立、新たな雨期作物としての稲作の導入、養殖の導入、行政組織との緊密な連携等が住民及び行政機関から高く評価して頂きました。また、アクションプランは、2010年から開始し、2015年を目標年と定め、事業期間6年間を3地域に分けて段階的に実施する計画にしております。

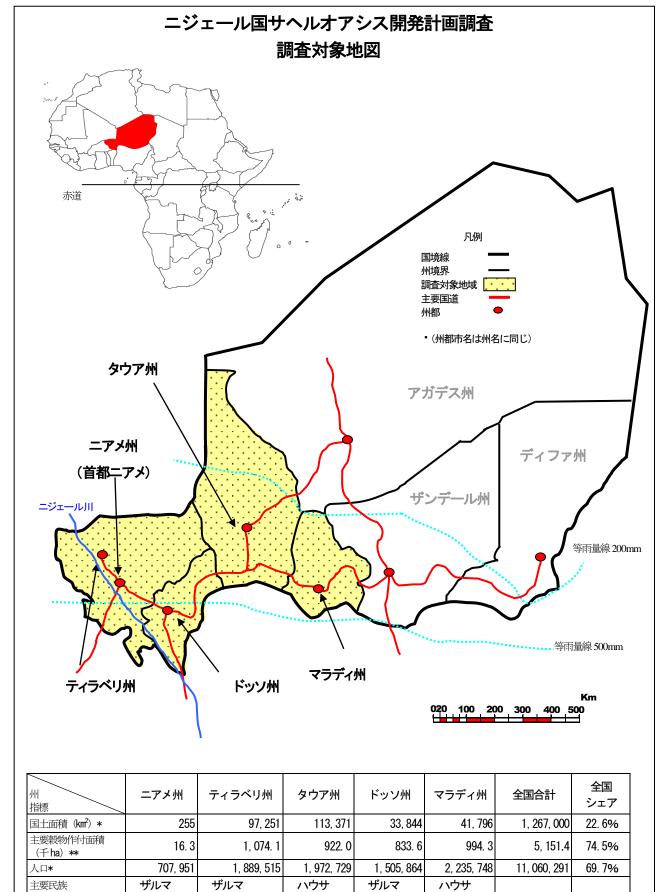
本調査は、カウンターパート機関である農業開発省に加えて、中央政府関係者、各州各県の農業開発事務所、コミューン関係者、貯水池の受益者の参加を得て進めて参りました。従って、本報告書に示されたアクションプランは、これら関係者といく度にわたる協議の中で取りまとめられたものです。

本調査の遂行にあたり、貴機構、外務省、農林水産省及び国内支援委員会の各位には、多大なご協力とご助言を賜りました。また、現地調査においては、農業開発省をはじめとするニジェール国の関係諸機関ならびに貴機構ニジェール事務所の関係各位から多大なる協力を得ることが出来ました。ここに心よりお礼申し上げます。

最後に、本報告書が農業開発省及び関係機関に活用され、「大統領特別プログラム」で建設された 小規模貯水池の有効活用が促進され、それに伴って地域農民の生活改善と貧困削減に寄与するこ とを切に祈念致します。

平成21年11月

独立行政法人 国際農林水産業研究センター ニジェール国サヘルオアシス開発計画調査団 総括 大須賀 公郎



出典: *2001 年国勢調査最終結果 (2005 年 2 月 1 日)、**1996-2000 年人口統計(2003 年 7 月)

1